



3冊の古いノートを手にする



新年あけましておめでとうございます。
 足踏みしていた冬将軍もクリスマスを目がけて寒波と共に襲来、あっという間に1m超えの積雪に中津川らしさを感じた年末だった。
 暮れに現役時代にはなかなか出来なかった自宅の大掃除を慌ただしく手掛けてみた。物置の片隅に積み上げられ久しく手が付けられないままホコリをかぶっているダンボールを開けて見ることにした。ずいぶん昔の書類や本がびっしり詰まったもので、手に取ってみると、初めて社会人になった前々職の農協職員時代の物を捨てきれず箱に詰め込んだものだった。中でも目を引いた物は、びっしりとメモられていたノート3冊である。今から45年前、農協に就職して最初の仕事が牛の人工授精師であった頃の物である。ノートを手に取り見開いているうちに当時の情景が昨日のように思い出されるから面白い。当時は、何とかして技術習得したいとの一心で朝から晩まで畜産農家を駆けずり回っていた。その頃の中津川地区内での繁殖牛飼養戸数は120戸位の一大産業だったと記憶する。ノートの中身には訪問した生産者名と牛の名号が列記され、処置内容が事細かに書き記されている野帳であった。驚いたことに生産者の大半がもうこの世に居ない事に一抹の寂しさを覚え、改めて自分の過ごしてきた時の長さを噛み締めた。年末に中津川の部落長会による研修会と一年を締めくくる忘年会が開催された。酒を酌み交わしながら話し込んでいく中で、自分の過去の経歴を披露しあう場があり、参加者一人一人が今の立場からは到底推し量れない、意外な職歴と人の廻り合わせや偶然の重なりに参加者一同笑いに包まれ盛り上がったことを思い出した。50年も前の自分が、今の自分を想像もしていなかったことに不思議な思いを重ねて笑ってしまう。

また、昨年秋の文化祭には、昭和の戦中戦後を彷彿させる内容の展示を行い、来館者の郷愁を誘った。写真を通して地区内産業の栄枯盛衰が見えてくる。かつて戦後の地域経済を潤したのものとして天然ブナ材の伐り出しや薪炭生産、やがて化石燃料にとって代わる。米の増産政策が一転し、減反政策に移行。並行して和牛飼育が推奨され、ほとんどの農家が1、2頭の牛を家族同様に育てていたが多頭化へと集約された。ナメコ缶詰生産高は一時全国シェアの3割とまで言われた時代、数々の町工場で働く女性たちの輝き、ダムの完成と共に観光産業に陽が射すなど、多くの人々が地域を支え続けてきた。時代の変遷を中津川の年表に落とし込むと未来が見えてくるかもしれない。

今年は寅年。「みずのえ寅」には「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長する」といった縁起の良い意味があるそうだ。何をやるにも人手が足りないという難問にぶち当たるが、今年は新しいものが芽生え、育ち始める希望の年であると期待したいものだ。



第41回 中津川雪まつりキャッチフレーズ募集

今年度の雪まつりは今のところ開催予定で進められております。
 そこで 皆様よりキャッチフレーズを募集いたします。
 詳しくは、今回配布の別紙をご覧ください応募下さいませようお願いいたします。

たくさんの応募お待ちしております

昨年になりますが チャレンジクラブの年末企画を写真でご紹介いたします



子どもたちの年末ケーキ作り！みんな上手に出来ました！



段ボールでお家づくり
 素敵なお家が出来上がりました



手作りピザを作っています。
 みんな真剣に友美先生の話に耳を傾けてます



お昼にはうどんもたくさん食べました！みんな元気でがんばろ～

最後は公民館から子供たちに気持ちばかりのプレゼント！気に入ってくれたようです。みんな1日がんばりました！



毎回花を活けてくださる長谷川さん！今年わざわざ雪の中足を運んでくださいました。いつもありがとうございます

～ありがとうございます～

むか～しむかし『そば道楽喰の会』という団体がありました。それがいつの間にか自然消滅！通帳だけが残って、う～ん？！お金残っててその代表者の方から公民館で地区のために使ってくれということでお預かりしておりましたが、今回その時がきて、大きなガスコンロを買わせていただきました。そば祭りの時は大変助かり、とても喜んでおります。本当にありがとうございました。地区の皆さんもぜひご利用ください！

題名「はじめることは、やめること」

移住して、早いもので9年が経ちました。農家民宿をやるとか、農家レストランをやるとか模索した時期があり、中津川地区もいろいろなことに取り組んでいました。すごく頑張っている地区だと思っていました。でも、9年たち、人口の減少と、高齢化が進行しています。地区としての課題は、次々に起こってきます。人が減って、高齢化していく中で新たな課題に対処するのはいろいろ大変だと思います。我が家も、当初、始めたことで現在やっていないことは沢山あります。また、時を追うごとに新たな取り組みを行っています。

で、中津川を見ると地区の皆さんは、まじめなので、なかなか今までの取り組みをやめられない。でも新たな課題の発生は待ってくれません。現在の人材をどこに向けるか考えないといけない時期かもしれません。日本全体が停滞していく中で、1990年代にウエルチの著書の「選択と集中」というキーワードがでてきて、日本の企業の多くが取り組んでいます。

そこで、中津川地区も「選択と集中」を行うとすると、今までやっていたことをやめる選択が必要になります。高齢化と人手不足の中で始めるとすると、「1つ始めるために、2つやめる」くらいの決断が迫られると思います。今年はホンダがF1でドライバーズ・チャンピオンを獲得しているのに、今年限りでF1から撤退するし、百貨店も閉店する地方が増えるし、都市計画特措法のおかげで、都市部でもインフラ整備をしないところが出てきました。対応しているところは対応している。民間企業ならなおさら厳しい選択を迫られます。企業なら、倒産したり、買収されたり、ほんとうに生き残りをかけた選択が迫られています。

一方で、地方創生とか、地方の可能性が指摘されています。新たな取り組みを行えば、新しい可能性が見えてくるかもしれません。とりあえず、登り始めないと遠くの地平線は見えないし、登り始めると視野が広がり、新たな出会いがあるかもしれない。中津川の人もしっかり対応できると思います。

偉そうなことを書いていますが、わが身を振り返ると自身満々で始めたことも、現在やってないことは沢山あります。でも、その失敗事例は記憶から消えています。または、失敗事例から学ぶことがあれば、気持ちの上で失敗に数えず、途中経過だと思っているかも。ということで、新たに始めることに不安を持たない恵まれた性格かもしれません。でも、中津川の皆さんもパワーのある人が多いので、実際何か始めれば、好転していくような気がします。そこで、現状で重要なことは

「1つはじめるには、2つやめる」 だと思います。3つやめてもいいですよ。

と、結論めいたことを書いていますが、現状で幸せで満足している人生なら積極的に「幸せに減ぶ」という選択もありです。活性化とか持続可能とか面倒だ、今のままでいいじゃないか、何の問題もないとなれば、人口減少で減んでも「幸せのまま減びたい」というのを積極的に選択できます。その場合は、活性化とか不要だし、移住者は不要だし、新しいことは不要です。現在の中津川の暮らしが幸せだと積極的に選択して暮らしていけます。この場合も「幸せに減ぶ」を選択すると、活性化とか持続可能とかやめられます。どちらを選んでも、「1つはじめて、2つやめられる」

船渡川 賢一

1月16日から2月5日までの行事予定表

日	月	火	水	木	金	土
16	17	18	19	20	21	22
	午前診療		午前診療	午後診療		
		財産区委員会				
		10:30~	民宿組合			
			定例会13:30~			
23	24	25	26	27	28	29
百歳体操	午前診療		午前診療	午後診療		
		はてなの会				
30	31	2 / 1	2	3	4	5
	午前診療		午前診療	午後診療		
				節分		
				館報2月号		

いろいろあれこれ

◎ 大寒は二十四節気の最終節で、最も寒い時期という意味です。一年の最低気温もこの時期に記録されることが多いようです。**2022年の大寒（だいかん）は、1月20日から2月3日**となります。

◎ 節分は、「みんなが健康で幸せに過ごせますように」という意味をこめて、悪いものを追い出す日。また節分という言葉には、「季節を分ける」という意味があります。

昔の日本では、春は一年のはじまりとされ、特に大切にされたようです。そのため、春が始まる前の日、つまり冬と春を分ける日だけを節分と呼ぶようになりました。「鬼は外、福はうち」と言いながら豆まきをします。

★ 中津川診療所の診療日を入れました
午前診療・午後診療と表示されています。

* 公民館なんでもご意見箱を設置しておりますのでどんなことでも結構ですので書いてください。

♥ 皆さんのスケジュールも入れてくださいますね



あなたの鬼はどんな鬼？

